

人文科学・社会科学系の学部学生における 大学院進学意向調査（案）について

【趣旨】

人文科学・社会科学系の大学院進学率が低い状況であるが、人文科学・社会科学系の学部学生は大学院（進学）をどう認識しているのか。

【確認すべき内容】

- ・大学院に進学する理由／進学しない（又は検討もしない）理由
- ・どういう条件があれば大学院進学をするか（検討しても良いか）
- ・大学院進学によってどのようなことを期待するか

【回答に与える要因の分析】

- ・回答者の属性（年齢、性別、分野、在学年次等） ※学部3・4年生を対象と想定
- ・ゼミへの所属・卒業論文の有無
- ・進学を希望するに当たって、影響を受けた人物や環境について
- ・大学は大学院でどのような教育が行われ、何が身に付くか周知しているか
- ・奨学金の受給など経済的状況
- ・国立／公立／私立の違いがあるか

次頁以降に先行研究事例

【進学メリットがどの程度行動変容を促すか】

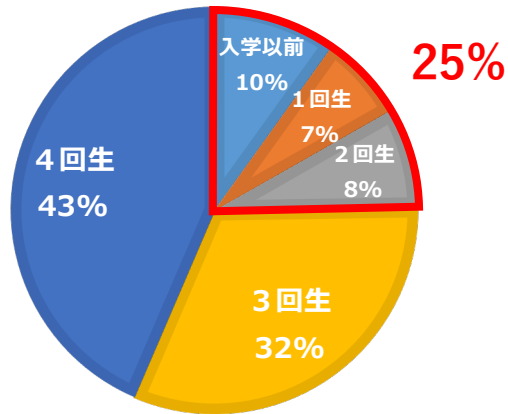
- ・アンケートの最後に賃金プレミアム等のデータを紹介し、大学院進学の特長を知った際の進学意向への影響を確認

(参考) 人文科学・社会科学系の大学院進学率向上に関する研究

杉山・伊藤・武山・嶋津（2007）の研究では、立命館大学の人文・社会科学系博士課程前期課程への学内進学者を安定的に確保し、大学院教学の拡充と活性化を図るための調査分析及び政策提起がなされており、調査結果から以下のことが明らかとなっている。

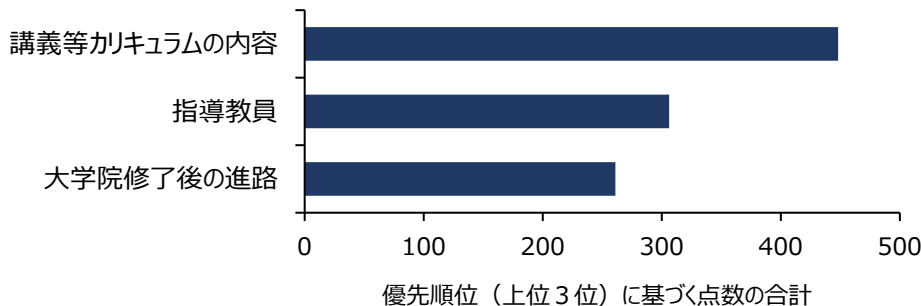
1. 入学前を含め1回生、2回生時までに本学大学院進学を志望している層が存在する（大学院進学者の25%）

大学院志望時期
(学部卒業生アンケート)



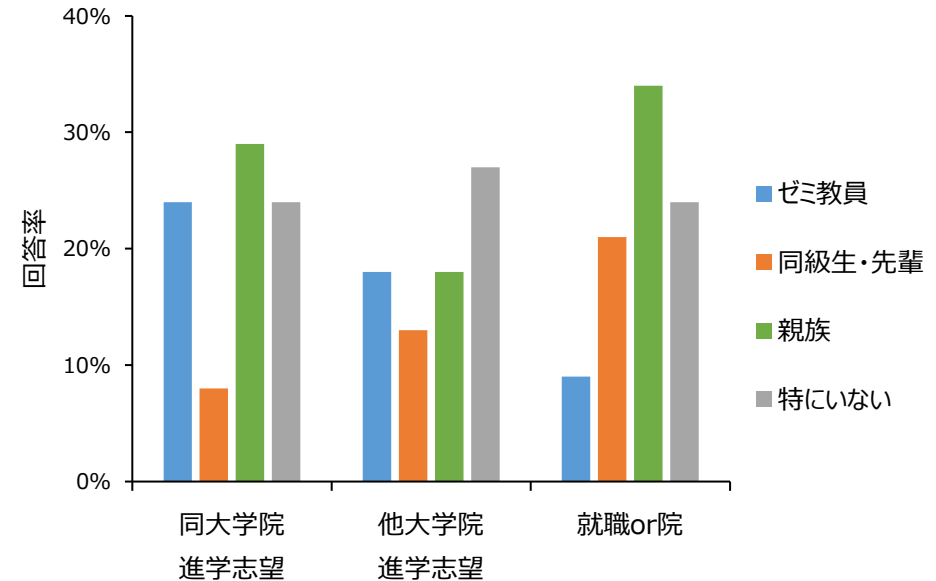
3. 大学院進学志望者は教学内容への関心が高い

大学院を選択する際の優先順位
(大学院入試説明会参加者アンケート)



2. 大学院進学を志望するにあたっては、親族、ゼミ教員、同級生・先輩の影響が大きい
特に、就職か大学院進学かを迷っている学生（就職or院）は、親族と同級生・先輩の影響が大きい

進路希望にあたり強い影響を受けた人物
(学部4回生アンケート)



※資料中のグラフは出典に基づいて文部科学省が作成

【出典】杉山他「人文・社会科学系大学院博士課程前期課程における学内進学者確保に関する入学政策」(大学行政研究, 2007年)

(参考) 人文科学・社会科学系の大学院進学率向上に関する研究

4. 大学院に進学した者が、学部在学中に最も一生懸命に取り組んだ学習は専門科目である

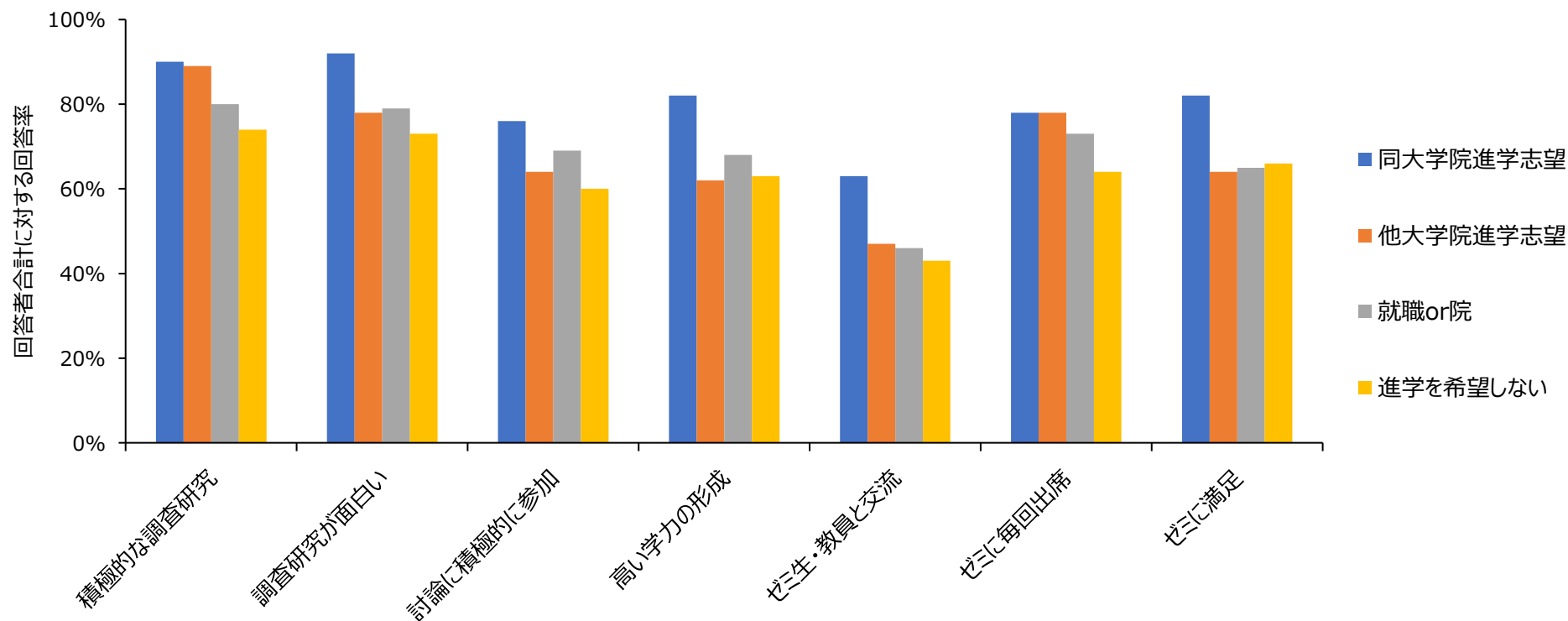
(専門科目：55%，ゼミ：39%，卒論・卒研：31%)

大学院に進学した者は「学習意欲が高かった」と回答する割合が学部の学年進行にあわせて向上している

(1回生：47%，4回生：65%)

5. 3回生ゼミで積極的なかわりを持っている学生ほど（当該）大学院進学への志望が強い

大学院進学と3回生ゼミでの活動状況の関連（学部4回生アンケート）



※資料中のグラフは出典に基づいて文部科学省が作成

【出典】杉山他「人文・社会科学系大学院博士課程前期課程における学内進学者確保に関する入学政策」（大学行政研究，2007年）

6. 3回生ゼミに対する学生の不満と多くの大学院進学者を輩出するゼミの取組みとは表裏の関係にある
大学院進学者を多数輩出するゼミでは、学生間あるいは学生と上回生（大学院生）の間で学びあう環境や、教員が学生の取組みを受けとめ、勉強する（させる）環境ができています

【3回生ゼミの満足度】

満足・まあまあ満足：67%， やや不満・不満：11%

※大学院進学者の1/3が3回生の時点で大学院進学 of 志望を決定（項目1参照）

【学生の不満の声について】

- ・ゼミでしっかり勉強したい
- ・専門的な学修を深められるようにゼミの運営をはかってほしい
- ・そのために自主的、集団的に学修できるように学生間の交流をはかってほしい
- ・教員との交流の機会を増やし的確な指導をしてほしい 等

対照的

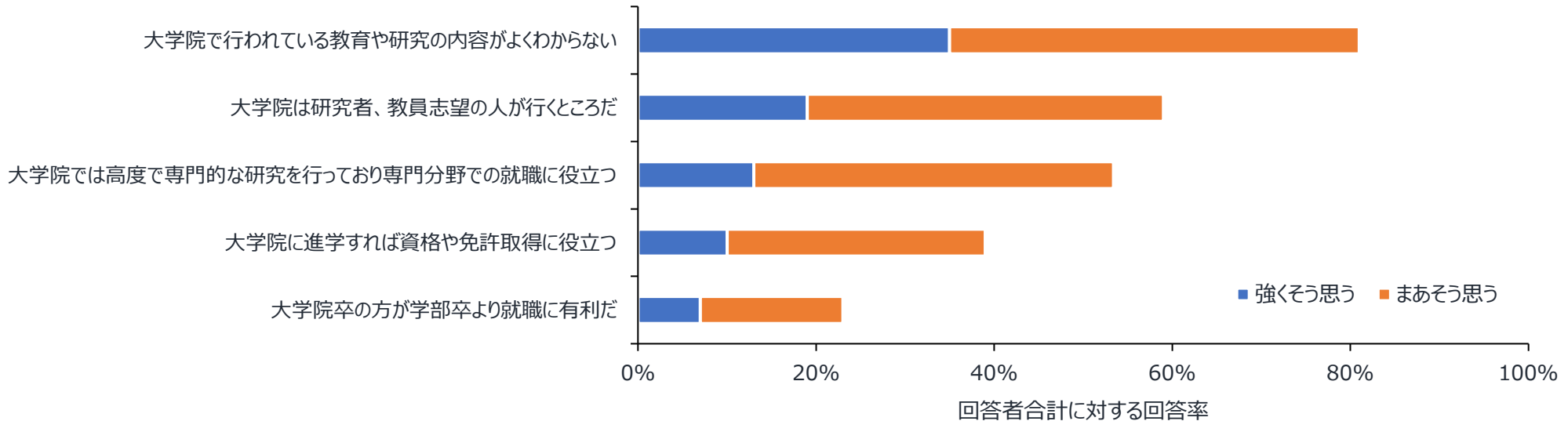
【大学院進学者を多数輩出しているゼミの特徴】

- ・3回生と4回生のゼミを合同開催にすることや、大学院生の参加を呼びかけるなど、上回生や大学院生との交流を活発にしている
- ・グループワーク形式によるゼミ運営など、自主的な勉強会を頻繁に行わざるを得ない環境をつくっている
- ・自主的なゼミ活動や勉強会が頻繁に行われており、回生を問わず参加がある
- ・研究構想、中間報告、最終報告の各段階でレポート添削を個別に行う 等

➡ ゼミにおいて本気で勉強や研究をする機会が作れば、積極的にゼミに参加し、結果として高い学力を形成し、大学院進学へ動機づけられる好循環を生み出すことができる。

7. 大学院を「知らない」学生が相当数いる

大学院の印象 (学部4回生アンケート)



【論文中で指摘されている課題】

- ① 学部低回生や進路志望時期である3回生に対しての進路としての大学院進学への「訴え」が不十分
- ② 大学院進学志望にあたって強い影響を与える相談者への取組みが不十分
- ③ 学部ゼミや専門科目を通じて本気で勉強や研究をする機会が充分作れていない